

タイトル案

「誕生日にNTRをプレゼント!!：僕の彼女が女友達に唆されて、他の男に抱かれてきてくれました」

**赤羽初瀬**（20）：大学二年生。主人公の正彼女。彼氏のNTR性癖を知ってしまい、どう対応すればいいか悩んでいる。彼氏LOVEで彼氏が喜ぶことはなんでもしてあげたい。

160cm、91(G) | 56 | 88

CV：乙倉ゆい

**増木悠**（20）：大学二年生初瀬の友達。経験豊富。面白いことに積極的。特にエロが絡むとノリノリ。162cm、82(C) | 54 | 83

CV：杏花

**榎原大起**（21）：大学二年生。悠のセフレ。アメフト部。ヤリチンマッチョ。テクニクもヤバい。絶倫デカチン遅漏。一年生のころ初瀬と主人公が付き合う前に初瀬に告白して振られている。

**主人公**（20）：大学で念願の初彼女を作るが長年の童貞が拗れてNTRもののオカズにハマってしまう。彼女には興奮しそうだけど怖さが勝ってカミングアウトもしていない。彼女とは普通にエッチできる。

キーアイテム：彼氏からのプレゼ

## 台本構成

初瀬：黒字括弧

悠：青地括弧

ト書き：赤字

やんやw





0…初瀬への下着プレゼント&猥談&恋人えっち



ラブホで彼氏とエッチ前。プレゼントされた勝負下着を付けてお披露目

肉声、ほんのちよつと気恥ずかしさは見せるけど、照れすぎず、リラックスして。

「正面遠目↓近寄りつつ」

初瀬「ねえちよつと……この下着きわどすぎない？こういう大人っぽい初めてでさ。」

初瀬「Tバックとかいつも穿かないし、この青っていうか紺？みたいな色も普段選ばないからさ……いや、セクシーでかつこいいなっとは思っただけど、これ白いシャツとか着ると柄まばっちり透けちゃうよね。」

「正面でくねくねしながら」

初瀬「わたし結構持つてる上は薄い色ばかりだから下着の透けとか気付かずにやっちゃってること、良くあるんだよね。」

初瀬「これはあなたとこういうとこに来る時以外は中々つけられないかもなー」

初瀬「あなたも嫌でしょ？他の男に彼女の着る下着見られるのは……」

少し間を開けて

「正面少し近づいて」

初瀬「…聞いている？こんなエッチな下着つけてるのを他の男に見られるの、彼氏として嫌じゃないの？って話」

初瀬「だつてさ、街中なんて色んな人がいるじゃん？あなたみたいな真面目な男ばかりじゃないじゃん？大学にもいるでしょ？やたら体鍛えてギリギリしてる人たち。」

初瀬「いやー、無理だなー。そんな人たちに下着見られたりエッチな目で見られたり、ましてやエッチなことされたりとか痴漢されたりとか……」

初瀬「え？あー、いや、いままで痴漢されたりとかはないよ？大丈夫。」

初瀬「…でもなんて言うんだろ？前に電車の中であつたんだけどね、満員電車でさ、しょうがないじゃん？当たっちゃったりはさ。で、おじさんと密着しちゃったんだよね。乗車率もシヤレにならない感じで、あとちよつとで片足浮くくらい？ぜんっぜん動けない状態でさ、なんか、こういう感じ。こう……おじさんにうしろから絡みつくみたいにおっぱい背中に押し付けちゃつてさ、太ももに足の間入っちゃつてさ」

初瀬「まあでも、それくらいはあなたもよくあるでしょ？でもそのおじさんスマホでSNSしててさ、投稿してんの！『ラッキー❤️電車の中でIDに密着されてるなう❤️おっぱい柔らかいし、いい匂いめっちゃする❤️』って！」

初瀬「もうさ、キモ！って。」

「正面少し離れて」

初瀬「あれ駅員さんに突き出すべきだったかなー…でも触られてるわけじゃないしさ、結局隣駅まで我慢してたけど」

初瀬「…ん？ああ、他にもいろいろ投稿されてたよ。『太ももにIDのまんこくっついてる❤️』とか『背中側なのが残念❤️前だったらちんこ擦り付けられるのに❤️』みたいなの。」

初瀬「それでさ、呆れるのがさ、その投稿にめっちゃリプとかいいねがついてくの！」

初瀬「ほんとゲスい男って、社会にいっぱいいるのね…」

初瀬「そんな社会にさ、こんなエッチな下着透けさせて出たらさ、やっぱり視線気になっちゃうな。見られるだけならしょうがないかなーって思うんだけどさ、そういうゲスい男達になんか共有されると思うと鳥肌立っちゃうよね。」

「そういうの嬉しかったりしないの？」という主人公の反応に対する返し

「正面ちょっと近づいて」

初瀬「はあ？そんなわけないでしょw女は好きな男以外からの視線とか好意なんて全然ノーサンキューだからw街中でのそういうのもなんだけど、好きじゃない男からの性欲を帯びた視線とか…なんか寒気がしちゃう。」

初瀬「去年あなたと付き合う前、同じ1年の男の子にコクられたって話したでしょ？あれ理学部ひろくんって子なんだけど、あの時もヤバかったなーw」

初瀬「もうね、下心丸出しwなんかその場で押し倒されそうな勢いだったよw」

初瀬「視線ずっとおっぱいと下半身に泳がせてさ、わかるんだよね、ああいうの。」

初瀬「どうなんだろう？他の女の子は気になんないのかな？わたしが敏感なだけなのかもだけど。」

初瀬「ひろ君とは今もキャンパスで良くすれ違うからさ、このブラ透けさせたりしたら絶対見てくるんだよなーwなんかね、「視線が刺さる」って言うじゃん？まさにあんな感じ。おっぱいとかお尻にグサリってくるんだよね、ひろ君の視線。」

なまじ一回告げられてるからさ、もう私のこと性的に見てるんだってのが確定してるじゃん？ひろ君にこれ見られたりするの、やだなあ。」

フォローするように

「正面一歩近づいて」

初瀬「あ、誤解しないでね？プレゼントは素直に嬉しいよ。なんか、付き合って、ちゃんと時間経ったって感じがするよね。無難なプレゼントじゃなくてセクシーな下着のプレゼントトってさ。」

初瀬「やっぱりドキドキするのって恋人同士でも大事だもんね。だからありがとすごく嬉しい」  
初瀬「勝負下着っていうんだよね、こういうの。大事にするね。お洗濯とか、今まであんまり気にしなかったけど、この下着だけはちゃんと手洗い陰干ししっかりしなきゃ」

「正面少し離れて」

初瀬「…あー、はじめは落ち着かなかったけど段々この下着にも慣れてきたなー。いいね、こういう下着来ると気分が大きくなるね。『わたし今可愛い下着つけてるんだぞ？』ってなってる心の中でドヤれるっていうかさ。薄い色の服合わせると透けちゃうって問題はどうかするとして、普段からこういうの着けるの、ライフハックとしていいかもしれないね。」  
初瀬「まあでも下着ってヘビローテしていると結構くたびれてきちゃうからね、やっぱり勝負下着の位置づけはキープかな…」

「正面近づきつつ後ろ振り返って」

初瀬「いや、ホントかわいいねコレ。見て？この前のところの花柄の刺繍、すっごい綺麗…生地の上に薄いレースがあしらってあって2重になってるんだね。繊細な感じー。ウエストが心本になってるのもオシャレよね。あは、ちょっとその弊害なんだけど腰のお肉がハムになっちゃってるw痩せなきゃなあwあ、クロッチのところで生地が変わってるんだね。それとほら、後ろ、後ろにもこうやってお花の刺繍あるのね、ほんとかわいい。っていうか後ろヤバいねwお尻丸出しじゃん。まあTバックってそういうもんだけどさ、後ろの生地細すぎじゃない？wお尻の穴ちゃんと隠れてるか不安になr

すこしびっくりした感じの控えめな喘ぎ

「後ろうむき近め」

初瀬「…んんっ♡」

初瀬「…あはは♡ごめんね、なんかベラベラ喋っちゃって。あなたとのエッチの前に知らないおじさんに密着しちゃった話とかテンション下がっちゃったかな？」

初瀬「…ちょっとwなんで鼻息荒くなってるのよw自分がプレゼントした下着姿に興奮しちゃったの？そんな怖い顔しなくても逃げないかr…んんっ♡」

「首だけ振り返って左耳近め」

初瀬「…ねえ、ちょっとホントどーしたの？w」

初瀬「…ええ？へんなのーw♡こういう話が逆に興奮しちゃうの？」

初瀬「嫉妬ってやつなのかな？w」

初瀬「…え？♡そのおじさんにどうやってくっついてたかって？」  
初瀬「ふふふ♡いいーよ、再現してあげる♡そこに立って…」

「正面に戻って左耳近めに戻る」

主人公に体を絡ませ擦り合わせるように上下しながらゆっくりと喘ぎはごくごく控えめに

「左耳密着」

初瀬「こうやって…んう♡…おっぱいも…ふう…はあ♡…おまたも…密着…んふう♡…させちゃったんだあ」

初瀬「あは、なんかヤバイねwホントに電車に乗ってる気分になっちゃうw」

初瀬「ふふ♡不思議だなあ♡大好きな人とくっつく♡と…んあ♡…嫌悪感どころか…んう♡…どんどん興奮してきちゃう♡」

初瀬「はあ♡あなたと…うあ♡…電車の中で…んう♡…こうやってくっついちゃったら…♡…ああ♡…やば♡濡れてきちゃうそう♡私、痴漢とか絶対遭いたくないけどさ、ちよつと想像しちゃうことはよくあるんだよねw」

初瀬「知ってると思うけど私ちよつとMなところあるからさ」

初瀬「…ね、痴漢してみる？」

初瀬「あは、やば♡電車の中で…ああ♡…痴漢されちゃってる…♡」

初瀬「ああ♡それ好き…下着の上からアソコすりすりされるの、きもちい…んう♡」

初瀬「んあ♡んふう♡んん♡うう♡あっ♡うあ♡んふ♡うう♡」

初瀬「あ、ちよ…気持ちいいけどもらった下着汚れちゃうから…下着、脱がせて？♡」

初瀬「あとちよつと恥ずかしいから電気暗くしてほしいな…」

初瀬「…い、いや、あなたになら見られてもいいんだけどやっぱりまだ照れちゃうんだよね」

初瀬「…ごめんね？お願い♡」

「すこし離れてから正面近め」

初瀬「うふふ、ありがと…あっ♡…いやん、脱がされちゃったー♡」

初瀬「…ちよつとー、なんでいつもよりガチガチなのー？♡」

初瀬「あ、待って、ゴム…はい♡♡」

うん…そのまま、きて？♡」



高校の頃の制服引っ張りだして体育倉庫で襲われちゃうプレイとか？  
それともなんかのコスプレとかして悪い人に負けちゃうプレイとか？  
えへ、私もなんかいつもと違う感じですごくドキドキしちゃったよw」

初瀬「プレゼントの下着もありがとね」

「そういえばあなたの誕生日もうすぐだね。」

「どうしよっかなプレゼント…貰った下着のお返しとしてなにかエッチなプレゼントにし  
ようかな？うふふ、ちよっと考えておくから、楽しみにしててね！」

「…僕の誕生日に彼女が来ない代わりに彼女の女友達が来る

誕生日の夜に自宅で初瀬を待つ主人公、そこに彼女から来れなくなったという連絡と、変わりに悠が来るという連絡が入る

「正面遠め↓近め」

悠「お邪魔しまーす！…って、あからさまに落ち込んだ顔やめてよーw」

悠「あはは、気持ちわかるけどねーwあんたの誕生日、ホントはアタシじゃなくて初瀬が来て、朝までベッドで…みたいな期待してたんでしょwその引き出しに入ってるコンドーム、いくつあるの？wゼーんぶ今晚、使い切る気でいたかな？wふふ、残念だったねw」

悠「初瀬からは聞いてるでしょ？『体調崩して今日はいけなくなっちゃった』『悠にあなたへのプレゼント渡してあるから部屋で悠を待って』そう連絡がいったはずだけど？」

悠「ふふふ♥おっけおっけ。ちょっと話は長くなるからさ、座って話を聞いてよ。」

「正面近め↓右耳近め(煽るような距離)」

悠「まずお誕生日おめでとって言わないとね。もちろん初瀬からよろしく言われてるけど、アタシからおめでとw」

悠「嬉しいんだよね、こういう祝い事であんた達が幸せそうにしてると。」

悠「あんた達みたいな初々しいカップルを近くでずっと見ているとき、あたしみたいに汚れた女もなんか洗われていく気がするし、ほんとラブラブで微笑ましいよーw」

悠「あんた達のこと、お互いのことしか見えてない、潔白で純真無垢なカップルだって、みーんな思ってるよ？」

悠「あたしもね、思ってた。この前までねw」

悠「やっぱさ、光があれば影があるって言うやつ？完全無欠な人間なんていないし、後ろ暗いことが一つもないなんてあり得ないよねw」

悠「…あははw何を言ってるか分からないかな？」

悠「いいから黙って聞いててよ。あたしのこのトークももう初瀬からのプレゼントの一環なんだからねw」

咳払い

悠「コホン…」

改まって、ただその中に密なニヤニヤを込めて

悠「まずあなたに伝えたい真実があります」

悠「初瀬が今日体調を崩しているという連絡、あれはあたしと初瀬が組んだ嘘です」

悠「初瀬は元気ですが家じゃなくて、別の或る場所にいます。今日はあなたへのプレゼントを最高のものにするために、初瀬はあなたと会わないことを決めています。」

フオローするように

悠「あ、大丈夫だよ？別に彼女が心移りしたとか、そういうわけじゃないの。明日からはいつも通りだから。ゼーんぜん深刻な問題じゃないからw」

悠「でもこれは初瀬があなたのために望んでいることだから、あなたは今日初瀬に会っちゃダメ。いいわね？」

悠「まあ言っちゃえばサプライズプレゼントみたいなものよ。だから空気読んでここはひとまずあたしの話にノってほしいわけ。そうすれば初瀬もあなたもハッピーなんだから、ね？ここまでいいかしら？」

悠「おっけ。じゃあ説明続けるわねw」

悠「…先々週くらいかな？初瀬からあたしに、彼氏のことと相談があるって連絡がありました。」

悠「プレゼントのことかなーって思ったんだけど、初瀬に会って見たらなんかめっちゃ複雑な顔しててさw何があったのって聞いたのよw」

悠「…あんたさ、この前彼女を自分ちに泊めた時、パソコンのブラウザ、ログインしっぱなしにしてたでしょwその時にあなたのズリネタの動画、初瀬が見ちゃったんだってw」

悠「もーw馬っ鹿ねーwその辺のセキュリティちゃんとしときなさいよw」

悠「覚えてる？思い出した？その頃あなたが何でシコってたか。」

悠「あー、『その頃』…じゃあないかw、あなたが『いつも』、何でシコってるか。」

悠「…寝取られ、寝取らせ、スワッピング…ふふふ、いい趣味をお持ちねw」

悠「いやいや、馬鹿にしてるわけじゃないわよ？男の子だけじゃなくて女の子だってアブノーマルな妄想とかインモラルな妄想でオナニーすることは普通っていうか、むしろ変な妄想の方がオカズとしては多いかもしれないし。」

悠「でもそれを彼女に見られちゃうのは馬鹿でしょw」

悠「初瀬がうっとうしい女だったら、『こんなモノ見てる男とは付き合えないー』ってなっちゃってたかもよ？」

悠「よかったわね、初瀬がそういう女じゃなくて。」

悠「…ん？どうだろう、あなたにとっては『よかった』のかな？『よくなかった』のかな？…くくくw」

悠「とりあえずね、あなたのパソコンに表示された、自分の恋人や奥さんが他の男にパコられちゃう動画を見て、初瀬は考えたわけだよ、『わたしの彼氏って、わたしが他の男とヤってるってこ見て興奮するんだらうな』ってねw」

悠「折しもあなたへのプレゼントを考えてる最中にねwそこから抱き合わせて出た結論っていうのが、『誕生日プレゼントに私が他の男に犯されるっていうのはどうだろう』ってことなわけw」

悠「あっはっはwいい彼女を持ったわねえーwあなたがずっと頭の中で描いていた理想の妄想、初瀬は叶えてくれちゃったわけw」

悠「もちろんあんたも知ってる通り初瀬は真面目な子だからね、だからといってそこらへんの男とワンナイトするような向こう見ずじゃないし、雑な浮気をプレゼントにするほど浅はかじゃない。そこで初瀬はあたしに相談してきたわけ。」

悠「彼氏に最高に興奮してもらえる寝取られ動画を録ってほしいってw」

悠「いやー、もう最っつ高w超エロい！w正直言ってこの企画自体、アタシへのプレゼントかなって思うくらい。そっからいろいろ研究して考えて実行して…この2,3週間はアタシにとって人生で一番楽しい時間だったわw」

悠「寝取られのAVとか同人誌とかめっちゃ買って読み込んだり、SNSのそっち関係の界限の人たちにDMしてどんな寝取られや寝取らせが興奮するか質問しまくったりして、めっちゃ調べたからね。大学入試より本気で取り組んだかもしれないわw」

悠「そんなわけで、はるかプロデューサー、主演初瀬で寝取らせドキュメンタリードラマを作ってきたから、一緒に見ようねw」

悠「…あ、一応アタシ、初瀬からはあんたとヤってもいいよって言われてるんだけど、どうする？初瀬が浮気えっちしちゃったんだから、仕返しにアタシを犯しちゃう？」

悠「…ふふ。素敵、よく我慢したねw立派だよ。アンタの初瀬への愛は本物だねw」

悠「ちょっと残念だなーw小悪魔的にアンタを食べちゃおうかなって思ってたんだけどw」

悠「まあアタシはあくまでもプロデューサーだからね、アンタとヤっちゃうのはやっぱり違うかなw」

悠「でもさ、この動画見て気持ち良くなって欲しいっていうのは初瀬の思いだからさ、そこは受け止めてあげようよ。アタシが下着姿になって、あんたがちんこ出して、そのちんこさわさわしてあげる…くらいならどう？ギリセーフ？」

悠「おっけ？良かったwじゃあトイレ行ったり服脱いだり…先に済ませておいてねw」

## 2…動画序盤：女友達のセフレヤリチンと軽めのイチャイチャ

「正面遠め→近め」

悠「じゃーんwえへへ、どう？アタシの下着姿？ちよつとは欲情してくれる？」

「…おいおい無反応かーいw傷つくなあw：まあ仕方ないかwあんたにとってこの世で一番興奮できるオカズが目の前にあるんだもんねw今のあんたにはあたしがおまんこ全開に広げてせまっても、きつと抱いてくれないんだらうねw」

「正面近め→右耳近め」

悠「ごめんごめん、じゃあ動画見ようか。最初の方はね、あんまり直接的な映像じゃないよ？寝取られが好きな人はプロセスが大事なんでしょ？大切な人が他の男に犯されるに至ったプロセスがさwちゃーんとその辺調べて分かってるんだからwまずは待ち合わせ場所にいる初瀬の映像からだよ？時間はなんと今日の朝！撮りたての映像だね！」

動画再生（動画音声部分は軽いホワイトノイズを混ぜて動画再生感を出す？バイノーラルじゃなくてモノラル音声の方がいいかも。）

待ち合わせ場所の公園にて。悠ノリノリ、初瀬おどおど

悠「…よいつしよつと…撮影開始→wさあさあ初瀬ー、いよいよプレゼント動画の始まりだけど、どんな気分？」

初瀬「え、えと…や、やっぱり緊張するな…」

肉声

悠「ほら、初瀬だよ？これから他の男とエッチなことしちゃうあんたの大事な彼女ですよー？w」

動画再生

悠「ふふふふwいいいいよ、いきなりノリノリでこういうの始めたら彼氏も幻滅しちゃうからねw初瀬は無理に頑張らないで自然体でアタシに任せておけばオッケーだからw」

初瀬「そーいうものなの？」

悠「そうそう！実際のエロだけじゃなくて、エロ本とかエロ同人の世界にも、アタシは詳しくんだから！」

「ちよつと悠、声大きいから…」

悠「だーいじょうぶ！誰もいないじゃんw」

初瀬「だけど…」

悠「言ったでしょ、今エロ創作の世界はね、寝取られとか寝取らせが軽くブームなんだよ。だから初瀬の彼氏だけじゃないよ、彼女を他の男に抱かせる彼氏はw」

初瀬「ホントかな…」

肉声

悠『つぶっはっはw初瀬ってこういう嘘単純に信じちゃうところ可愛いよねーwいかにも真面目な見た目のくせに、ちょっとねじ緩んでるところ、最高だよねw』

動画再生

悠「にしても初瀬今日気合入った服装してるわね？」

初瀬「いや、それも悠が言ったんでしょ？彼氏とデートすると思って一番気に入ってる服装てこいつて」

悠「オフショルダーにニーハイは想像以上だったよw」

初瀬「うう…」

悠「いやいや、褒めてんのよ？すごい可愛いよ。色も白でザ・清楚彼女って感じw」

初瀬「何？ファッションチェックのつもり？w」

悠『ふふふ、これ初瀬気付いてるのかな、ブラめっちゃ透けてるのwあれで天然のどこあるからねwあー、ウケるwここに来るまでに何人の男にブラ見られちゃったんだろうねw』

動画再生

悠「スカートもいいね！今そういう色の青、流行ってるからね！

このベルトのこのリボンほどいたらどーなんの？」

初瀬「ちよつと悠！」

悠「あはは、冗談冗談！じゃ初瀬、決められた通り、どうぞー！」

初瀬「は？なに？」

悠「何って、始める前に彼氏に一言って言ったでしょ？セリフ教えてあげたじゃん」

「え…あれ本気で言うの？」

悠「ほらほら、動画は尺を意識して！さっさと言う言うー！どうぞー！」

めっちゃ恥ずかしそうにたどたどしく

初瀬「えー…えーつと…お、お誕生日おめでとう。その…プレゼント何がいいかなって考えたんだけど…この前下着…貰ったでしょ？あれに見合うようにちよつと…その…エッチなものがいいかなって思って…あなたが一番興奮するのが何か、あなたに内緒で考えてたんだけど…悠にも相談して…その…寝取られ…っていうの？それをやってあげようかなと思つて…今日は、動画を録っています…」

悠「ちよつとー、アタシが教えたセリフいつ出てくるの？」

初瀬「い、いま言うよ、もう…その…わたし、今からあなたじゃない男の人としてくるから…それ見て気持ち良くなつてね？」

悠「うっわエッw」

初瀬「悠が言えって言ったんでしょ?!」

悠「でもアタシが教えたセリフとはちょっと違うけど？」

初瀬「だってあんな長い覚えられないよ！それにアレ下品すぎない？」

悠「だからこそいいんだって。初瀬みたいな大人しい彼女があんな言葉を口にするから寝取られ好きの彼氏が喜ぶんじゃない。」

初瀬「どっちみち覚えてないし」

悠「そう言っただけで逃げると思っただけでカンペ作ってました！」

初瀬「?!えー!!」

悠「はい、映画の撮影では監督の言うことは絶対よ？カンペ見ながらいいからちゃんとカメラに向かって言っただけ」

初瀬「うう…えつと…いい、いまからわたし…あなたじゃない男の人と…ば、パコってくるから…大好きなあなた以外の男の…汚い…ち、チンポを…あなたに捧げるはずの…わたしの…お、おまんこに…ずっこんばっこんしてもらうから…それ見ていっぱいシコシコしてね?…わたし…寝取られて、種付け…されてくるからね?」

悠「はい!よかったですーw」

初瀬「メモに書いてあるからその通りに言っただけ、話した通りちゃんと避妊してもらおうよ?わたしまだ彼とゴムありでしかしたことないんだから…」

悠「今日安全日なんですよ?」

初瀬「そうだけど、そーいう問題じゃないから!」

悠「はいはい。わかってますって。全部アタシに任せておけば大丈夫だってw」

初瀬「はあー、ほんとにこれで喜ばれるのかなあ?」

悠「あ、ね、初瀬、さっきも言ったでしょ?アタシは寝取られを極めてるから」

初瀬「意味わかんない」

悠「寝取られをこじらせた奴はね、ただ彼女が他の男とやってるだけじゃダメなの。しっかりとコンプレックスを刺激されながら犯されなきゃダメなの。」

初瀬「コンプレックス?」

悠「そ。」

初瀬「つまり?」

悠「だから初瀬や彼氏が、『ホントはやられたくないな』とか『これはやりすぎじゃないかなー』とか、そう思うようなことをやられちゃうのが一番ツボにくるのよ。」

初瀬「例えば?」

悠「相手の男のお尻の穴舐めたりとか。」

初瀬「うわあ…」

悠「お尻思いつきりひっぱたかれながら犯されるとか」

「ひゃー…」

悠「お尻叩かれるの大丈夫?」

初瀬「うーん、お尻の穴舐めるのよりは…まあ多分…わたしちょっとMなどこあるから」

悠「あはは、いいねー。初瀬ってぼんやりしてるようで、そういうとこキモが据わってるの、すごくかっこいいよねw」

初瀬「なんかその…自分からどうこうするのはちょっと何していいか分かんなくなっちゃうんだけど」

悠「分かってる分かっているwみなまで言うなw基本的にはあたしと相手ペースで進行するから。初瀬にしてほしいことあったらこっちから言うから初瀬は黙ってそれに従ってくれればいいから。」

初瀬「それなら…まあ大丈夫だとは思うけど。」

悠「あとは初瀬が散々嫌がってる中出しをされちゃうとかもコンプレックスを刺激するよね」

初瀬「だからそれだけはダメだってば。」

悠「でも絶対彼氏喜ぶよ？大好きな彼女のまんこに他の男のザーメン流し込まれるとか、一生のオカズになること間違いなしだよ？」

初瀬「…んう♥…うう…と、とにかく他のことはともかく中出しはダメだからね？」

悠「あはは、まあ鋭意努力しますwでも今あたしにエロいこと言われて想像しておまんこきゅんってなっちゃったでしょ？」

初瀬「いや…」

悠「初瀬？友達に嘘つくんだ？」

初瀬「うう、もう…そりゃ否定はしないけどさ」

悠「あはは、だいじょーぶ、初瀬がMだってこともしっかり分かってるから。こういう下品な言葉で初瀬のおまんこの緊張をほどこいてるんだよーw」

初瀬「わかった、わかったから…悠、ホント声大きい…」

悠「ん？わかったってどういう意味？」

初瀬「え？」

悠「ちゃんと行ってよ。何が分かったの？」

初瀬「もう…(やけくそ感を出して)だから悠にエッチなこと言われてちょっと期待しちゃいました！…これでいい？」

悠「おっけーおっけーwホント初瀬最高だなwとりあえずどんなことするかはこっちで考えるのと、大起もしたいことあるだろうからね、あたしと大起のリクエストに伝えてくれればいいよ。それが彼氏のコンプレックスをグサグサほじっていくからw」

初瀬「うわぁ…私、どんなことされちゃうんだろ…」

悠「ひろぎにもNGなして伝えてあるから覚悟してねw」

初瀬「まったく…ねえ、ところでなんでひろ君なの？こういうのって知らない男の人の方がいいんじゃないの？」

悠「『いい』って何を以って『いい』かって話よね。彼氏が一番興奮するであろう相手を選んで欲しいって言ったのは初瀬の方でしょ？」

初瀬「それはそうだけど」

悠「そういう意味ではひろきが最高よ。彼をおいて他にいないわ。」

初瀬「悠の彼氏とスるなんて…」

悠「彼氏じゃないよwセフレwまあセフレの中では一番のお気に入りだけどね」

初瀬「どっちにしろめっちゃ気まずいんだけど。今後の関係とか大丈夫？」

悠「あー、そっかw去年コクられたんだもんね。大丈夫。あっちは全然気にしてないからw初瀬とやれるって知ったら大喜びだったよw」

初瀬「…悠も気にしないの？」

悠「なんでアタシが気にすんのよw彼氏じゃなくてセフレなんだから問題ナッシングよw

初瀬も気に入ったらお気に入りのおセフレとして定期利用していいのよ？」

初瀬「…遠慮しとくよ」

悠「そう？向こうは初瀬のことお気に入りのおナホとして使いたがってると思うけどw」

初瀬「…ちよっとw」

悠「それに去年からだいぶアメフトで体鍛えて様変わりしてるわよ。もともと190センチあったところに筋肉ついてムキムキマッチョそのもの。彼氏を忘れてひろきに惚れないように気をつけてねw」

初瀬「それはないから…」

悠「自分をフった女と合法的にやれるってなったらそりゃ男は喜ぶよねw多分我を忘れて初瀬にがつつくんだろうなあ。アタシは経験してるから知ってるんだけどさ、あのデカい体に押し潰されるように犯されるの癖になっちゃうんだよね…」

初瀬「意味わかんない…」

悠「寝バックで征服されるの、最高よ？」

「寝バック？」

悠「は？知らないの？」

初瀬「なにそれ？」

悠「あ、ひろき来たわ。ひろきーこっちこっちー！」

初瀬「ひ、ひろくん…久しぶり…」

悠「紹介は必要ないわよね。ニヤニヤすんじゃないわよ、気持ち悪いwあんた今日役得なんだろうけど、あくまでも初瀬の彼氏のためだからね？あんま個性出すんじゃないわよ？あんまり喋らないでね。あんたはその馬鹿みたいにデカイチンコガチガチにしてくれてればそれでいいんだから」

初瀬「悠ほんと声大きいから…もういこ？」

悠「わ、初瀬積極的ねwもうひろきに犯されたくてたまらない？」

初瀬「ち、ちがうわよ、あんまり人に見られたくないし…」

悠「じゃホテルまでちよっと歩くから」

初瀬「ふう、やっと撮影から解放される…」

悠「まあ動画の撮影はちょっと目立つから勘弁してあげるけど、写真はデートみたいなのを道中録るからねw」

初瀬「は？」

悠「はい！ひろきと初瀬、手つないでーw」

初瀬「…う…ひ、ひろくん、ご、ごめんね？」

悠「だめだめ！そんなじゃないでしょ？恋人同士なんだから！恋人繋ぎして！」

初瀬「…うう…」

悠「ぎこちなすぎるでしょw初瀬、ひろきの腕に反対の手添えて。」

初瀬「…うううう…」

悠「あはは、いつも彼氏とそんな風にお散歩してるの？」

初瀬「…ま、まあそうね…」

悠「くくく、今日は違う男に寄り添ってるけどねーw」

初瀬「…ちよっとコレマジで恥ずかしいから…早くいこ！」

悠「はいはい、じゃあしゅっぱーっつ！」

肉声

「右耳近め」

悠『というわけでね、お相手は梶原大起、わたしたちの同級生でしたーw』

あんたはあんまり接点ないかな？初瀬から聞いたかもしれないけど、去年初瀬にコクって振られた男ですwどう？私の竿役セレクトは。知らない男よりビンビン来るでしょ？

初瀬との人間関係を考えるとベストだと思うんだよねw  
だってさ、去年は初瀬を見てさ、

悠「お、いい女じゃん、こいつとやりてーwワンチャン告ってオーケー貰えれば合法的にやりまくれるんじゃない？w」

ってノリノリで告ったところ撃沈したわけでしょ？w

めっちゃ大起としては初瀬とやりたいモチベーションあるわけじゃん？wなんならちよつと恨みみたいなものもあるかもね？

「俺の事フリヤがって…」ってさ、傷つけられたプライドをそのエッチな身体に叩きつけてやるって、思っても不思議じゃないじゃない？

初瀬の方は初瀬の方で「こんな男ノーセンキュー」って思った相手に一年越しでやられるとか屈辱的じゃん？口には出さないけど絶対思ってるよ。思ってる、それがZ心を刺激しちゃってるよw

そしてなによりもあんたよね。ただのヤリチンじゃなくて、ずっと前から、あんたと初瀬が付き合う前から初瀬に目を付けてた相手に、自分の彼女を犯されるって…

どうよ、ゾクゾクするでしょ？w」

悠「あはは、とぼけても無駄よ？さっきからチンコガチじゃんwまああんたもそれなり  
のモノをお持ちのようでwうん、別に立派だと思うよ？w  
ただ大起のモノは規格外だからねw比べるとアレだけどw」

悠「ま、動画第一弾はこんな感じーw。ホテルまでのデートはあとは写真だけだけどね、ほ  
ら、正面からの写真w仲良いカップルみたいでしょ初瀬とひろきwどう？どう？

ちんちんビクビク来てる？w体格差ヤバイよねw大起は190あるからなーwなんか初瀬  
が肉食獣に捕まった鹿みたいに見えるよねw

あんたとしても自分にはないムキムキな体格見て、劣等感感じちゃうんじゃない？」

悠「ほら、この写真は途中のベンチに二人で座ってもらったやつ！w

あなたの彼女の肩にひろき、手え回しちゃってるよ？w

ははは、初瀬ったら、照れてカメラから目をそらそうとして、うっかりひろきの胸に頭預け  
ちゃってんじゃんwやばーw」

悠「あとこの写真ね、歩きながらひろきが調子乗って初瀬のお尻に手まわしたやつw

あはは！思ったよりしっかり初瀬のデカケツ鷲掴みにしてるねw

まあ「先走んなよ」って、しっかり叱つといたけどさ、ひろきの身になれば理解もできるよ  
ね。『もうすぐ憧れの女に自分のチンコ叩き込めるんだ』って、そりゃわくわくもしてケツ  
の一つくらい掴んでやりたくなるよねw」

悠「で、ほら、ホテル前に到着して、『今からここでやりまーすw』みたいなピースwぶふ  
ふ、初瀬ったら顔真っ赤w」

悠「ほんととは道中も録りたかったんだけど人目があるからねw写真で勘弁してねw

ひろきのやつ、あたしとやるときも時々あるんだけど、風呂入ってこないんだよねw初瀬は  
この時めっちゃ気にして綺麗にしてみたんだけど、ひろきはなんならちよっと汗臭い感  
じの。あんたも気にするでしょ？そういうタイプだもんねwでもひろきはそういうオス臭  
さでアピールしてくるっていうかさw多分初瀬も至近距離でひろきの匂い嗅いじゃって、  
発情してるんだろうねw」

悠「楽しみだね、初瀬が、あんたの彼女が、他の男にバチクソに犯されちゃうのがw

あは、答えなくていいよ？あんたのちんこがもう期待でバキバキじゃんwあんま激しくシ  
コシコしないであげるね？こういう風にむにむに優しく…

せっかくの初瀬が体を張ったプレゼント作ってくれたんだから、ゆっくり楽しも？

さ、次の場面はいよいよホテルの部屋からだよ？」

3…動画中盤：女友達のセフレヤリチンに簡単にイカされる彼女  
動画再生(モノラル)

悠「はーい、初瀬ちゃん、ここはどこですかー？」

初瀬「えっと…どこって…ラブ…ホ…だけど？」

悠「略さないで言ってくれるかな？」

初瀬「…ラブ…ホテルです…」

悠「ふーん、ラブホテルにいるんだー？wラブホテルってなにすごいですかあ？」

初瀬「…」

悠「はーい、ラブホテルってなにすごいですかあ？泊まる場所じゃないですよねえ？w」

初瀬「…その…えっち…するところ…」

悠「えっち？w」

初瀬「は…悠、あんまり意地悪しないでよ…」

悠「あはは、ごめんごめんwでもこういうのしっかき今から何するか、彼氏さんに詳しく伝える方が喜ばれるんだよ？」

初瀬「そーなの？」

悠「そうそうw…で、えっちって具体的になにするの？」

初瀬「その…裸になって…」

悠「別に裸じゃなくてもできるけどねw」

初瀬「んと…それから抱き合って…せ…セックスすること…」

悠「まあ初瀬にしちゃ頑張った方かなwもつと砕けて言うと、男のちんこを初瀬のまんこに入れることでしょ？」

初瀬「う…うう…」

悠「間違ってる？」

初瀬「…ううん、そう…です」

悠「で、今隣にいる男の人、その人彼氏さんですか？」

初瀬「ち…違います…」

悠「あ、そーなんですすねー？wじゃあ今から彼氏さんじゃない男のちんこを初瀬のまんこに入れるおつもりなんですか？」

初瀬「うう…そ、そうです…」

悠「ちゃんと自分の口で言ってくださいねー？w」

初瀬「えと…これからひろくんと、えっちします…」

悠「そうじゃなくて！」  
初瀬「うう…これから、ひろくんの…おち…おちんちんを、わたしの…アソコに…い、いれ  
ます」

悠「アソコ？」

初瀬「はるかあ…」

悠「あはは、ごめんごめん、いじめすぎたわwじゃあ始めようかwまずはそのかわいい私服姿をしっかりと撮らせてね。」

悠「うわーほんと可愛いね、初瀬」

初瀬「うう…」

悠「この服は自分で買ったの？」

初瀬「うん…上と…スカートは自分で買った…」

悠「お？ってことは自分で買ってないパーツもあるのかな？」

初瀬「えと…し、下着は彼氏のプレゼントで…」

悠「わーおwあつつあつうーw」

初瀬「あと、指輪も、だね」

悠「あはは、初瀬、見て、大起の顔wラブラブを見せつけやがってみたいな顔してるよw」

初瀬「え…その…ご、ごめん？」

悠「あはは、いーんだよ謝んなくてwもってラブラブエピソードを話して思いっきり大起をムカつかせてあげてよ」

初瀬「な、なんで？」

悠「ラブラブであればあるほど、それを潰すように初瀬を犯すのが気持ちよくなるからよw」

初瀬「ええ…？」

悠「ほら、他にないの？」

初瀬「うーんと…そうだな…スカートは…彼氏との初デートの時に穿いた思い出の服かな」

悠「わーおw」

初瀬「このオフショルダーのブラウスは…その…彼氏と…初めての時に…着たかも…」

悠「初めてって何が？」

初瀬「だからその…初エッチの時の…」

悠「すごいね、初瀬wアタシの指示なしでも完璧なコーデで来てくれるじゃんw」

初瀬「た、たまたまだよ…」

悠「ひろき…聞いた？今すぐこのブラウスとスカート破って初瀬を犯したいよねえw」

初瀬「え…ちょ…」

悠「うそうそwあのね、寝取られはそういうレイプとかとは違うんだってさ。」

初瀬「そ、そーなんだ…」

悠「まあでも大起の偽らざる思いは知っておいてよ。自分を振って他の男を選んだ女。その女が恋人との思い出の服着たら、それを上書きしたいって思うの当然じゃない？」

初瀬「いや…よくわからないけど…」

悠「大起はそういう思いを胸に、あなたを犯そうとするんだからねw」

初瀬「ちょ…ちょっと怖いね…」

悠「さあ大起、始めようか！まず何したい？いきなりまんこ弄ったり、フェラさせたりが変態的でいいと思うんだけど」

初瀬「うえ？！ちよっといきなりすぎでしょ？！」

悠「あはは、やっぱダメ？w」

あー大起もなんか言いたいことあんの？

…くくくw…キスカw意外と純情だね、あんたもwまあそっか、大起にしたら振られた相手だもんねw付き合えた世界線でできたかもしれないラブラブなチューを、セックスの前にしたいって気持ちも、分かるは分かるねw初瀬はどう？」

初瀬「え？ま…まあ、その…普通の方が…いいかな」

悠「ぶふふ、彼氏以外の男とキスするの、抵抗ないの？」

初瀬「あるよ！あるけどさ、いきなり激しいのよりは…その…」

悠「おっけおっけ、でもキスの仕方には注文つけさせてねw」

初瀬「仕方ってなによ？」

悠「初瀬には付き合ってる人がいるわけでしょ？だから初瀬からラブラブキスするよりも、大起が強引に初瀬の唇を奪う方が、彼氏くんにはグサリと来るかなって」

初瀬「んー…じゃあ私はだまっていればいいわけ？」

悠「ううん、カメラに向かって彼氏くんに愛を語ってくれるかな？」

初瀬「はあ？！」

悠「んで大起はその惚気っぷりにムカついたら初瀬の顎掴んで思いっきりキスしてよw」

初瀬「…うわー、悠ホント悪趣味ね…」

悠「アタシの趣味じゃないわよ。寝取られ性癖の男が、恋人がどう扱われれば興奮するかっていう研究の結果だから」

初瀬「の、のろけて？」

悠「なんでも良いわよ。初瀬が幸せだったっていうのと、彼氏を愛してる、つてのが伝われば」

初瀬「うー…え、も、もう言うの？」

悠「どうぞ」

初瀬「えと…あらためて、お誕生日おめでとう…あなたと付き合えて…わたし本当に幸せ…いつも優しく労わってくれてありがとう…愛してる…これからも…わたし、あなただけを…見てるかr…」

顎を掴まれキスされる。苦しげに。

んううううう！！！！？？んっ！んちゅ！む…んむう！あつ、んう！…むーっ！！んちゅ…」

悠「うわあ…良かったよ初瀬…最高」

息を切らす感じで

初瀬「はあ…はあ…」

悠「じゃあ彼氏に対して愛を宣言したところで、今からするヤバいことの内容を言ってもらおうかな」

初瀬「それは…さっき言ったじゃん」

悠「あれはお外だったからただの宣言だけだね、今はもっとエロいことしながらできるから」

初瀬「エロいこと？」

悠「うん。今度の宣言はひろきに顔舐めてもらいながらしよっか。」

初瀬「顔?!」

悠「そ、初瀬のその可愛い顔、大起に気持ちわるうーく舐めてもらいながら彼氏にご挨拶しよwホラひろき、初瀬の顔舐めてあげて。キモーく、笑いながら、時々こっち見てね。カメラの向こうの彼氏くん「おめーの彼女これからいただきまーすw」って感じでwほら、初瀬、簡単でいいから」

初瀬「うう…」

悠「はい、どーぞ」

セリフの途中に顔をベロっと舐められる感じで

初瀬「えと…さっきの言葉…んひゃう?!…あなたが好きっていうのは…んんっ♡…あなたが好きっていうのは本当なんだけど…きゃあっ♡ひ、ひろくん…あの…今日だけは特別に…んううう!♡この…ひろくに…んあぁ♡…その…お、犯してもらうね…ああん♡」

悠「いいねー初瀬も役者が板についてきたねw」

初瀬「うう…」

悠「あ、そー言えば初瀬、左手の薬指に指輪なんかしてくれちゃってるんだね≪見せて見せて、その指輪」

初瀬「これ？」

悠「へー、彼氏を選んだの？」

初瀬「そうだね…」

悠「じゃあ大切なものなんだね≪…うふふ、ちょっと悪いこと思いついちゃったw」

初瀬「え？」

悠「…ひろきさ、その指輪も、舐めてあげてよw」

初瀬「ええ?!」

悠「ペロペロなめるんじゃないなくて、なんかこう、べろおおおって≪これ以上考えられないってくらいでっきるだけ汚なくキモい感じで、さっき顔舐めたときみたいに。」

そうそう。そんな感じ。」

初瀬「う、ううううう」

悠「はーい、初瀬に恋人がいる証、舐められちゃいます」

せーの、べろおおお 

べっつつろおおおおお

ああ、いいねいいね、しゃぶっちゃいな」

うっわキツモキツツツツモ」

どう初瀬？」

初瀬「うううう……」

肉声

「右耳近め」

悠「わーかわいそーwもう指と指輪の間までひろきのよだれ染み込んでそうだよ

これから初瀬の指輪見る度にこの風景思い出してね。あなたが贈ったあの指輪、「ひろきに  
涎漬けにされたんだ」って…… 

動画再生(モノラル)

悠「いやー、傑作だったわwじゃあ思い出の品も汚したところで、初瀬本体を汚しにいか  
かwまずは初瀬の思い出のデートのスカート、めくりあげちゃおうよw」

初瀬「うああ……」

悠「初瀬？今何されてるか教えて？」

初瀬「う……その……ひろくんが後ろに立ってる……」

悠「そうだね、大起、すごい顔して初瀬の後ろに立ってるよ」

初瀬「……すご……めっちゃ息荒い……」

悠「大起、初瀬のスカート、めっちゃゆっくり捲ってー」

初瀬「うう……」

悠「あっは、太もも真っ白だねえ、初瀬」

初瀬「そんなことない……」

悠「あー、大起ストップストップw」

初瀬「え？」

悠「うふふ、あと1ミリでも上に捲ったらパンツ見えちゃうカッコになりましたwこの寸止  
め状態えろーいw」

初瀬「はあ……はあ……」

悠「下着は彼氏のプレゼントだって言っただけ？」

初瀬「……うん」

悠「エッチなやつ？」

初瀬「エッチなやつって言うか……まあセクシーなデザインだけ……」

悠「じゃあ当然勝負下着ってくりなわけだw」

初瀬「それはまあ……」



悠「それ着て彼氏ともうやった？」

初瀬「…う…うん…」

悠「あはは、そうなんだーwもうそのエロい下着着て彼氏とらぶらぶセックスしたんだね？w」

初瀬「し…した…」

悠「じゃあ基本的には彼氏以外に見せないはずのその下着、見せてもらいましょうかw大起、いいよ、完全にめくっちゃってーw」

一拍おいて

初瀬「…う！」

悠「うっわ、エッロwっていうかホントにいいやつじゃん！高いやつじゃん！」

初瀬「うう…」

悠「へえー、青ねえw彼氏もいい趣味してるわw大起、どう？このパンツ、気に入った？w」

初瀬「ちよっと…恥ずかしい…」

肉声

「右耳近め」

悠「ふふふ、自分の恋人が知らない男にスカートめくらられて、パンツ丸見えにされてる気分どう？あそこでパンツカメラに向かって晒してるの、AV女優やグラドルじゃなく、初瀬なんだよ？あなたの彼女なんだよ？」

動画再生(モノラル)

悠「あ！ちよっと初瀬！」

初瀬「な…なに？」

悠「いや、自分で分かってるんじゃないの？」

初瀬「なんの話？」

悠「下着の状態どうなってるかわかんない？」

初瀬「え？く…食い込んでいたり、紐よれちゃったりしてる？」

悠「いや、それならまだいいけどさ、めっちゃ染みできてるわよ？」

初瀬「え?!や、やだ…」

食い気味に

悠「あーダメダメ！隠すのダメダメ！大起、初瀬をしっかりとつかまえてねw今から近づいて録るかーらーw」

初瀬「ちょ、ひろくん、悠、ダメだつて…」

悠「はい彼氏くんwあなたの彼女、まだ何もしてないのに、まんこ濡らしちゃってますwあなたが初瀬のために一生懸命選んだパンツにいー、くつきりと染みつくっちゃってまーすw」

初瀬「うう…」

悠「初瀬、この染みなーに？」

初瀬「し…知らない…」

悠「あ、そういう態度取るんだ…。…大起、匂い嗅いでやってw」

初瀬「ちょ?!だめ!やめて!!」

悠「うーごーいーちゃーだーめー!」

股間の匂いを嗅がれる。恥ずかしがりながら

初瀬「…あっ♡…やん♡…」

悠「どう大起?おしっこの匂いする?…しない?はは、おしっこじゃないってよ、初瀬w」

初瀬「うう…」

悠「じゃあこの染みはマン汁ってことでいいかな?」

初瀬「…」

悠「大起とこれからすること想像しちゃうっておまんこの奥から溢れ出ちゃったマン汁ってことでいいかな?」

初瀬「…も、もう分かったから…そ、そうです…」

悠「分かったって言うなら何言えもいいかもわかってるよね?」

初瀬「…う…その…この染みは…ひろくんと…これからすること想像しちゃうって…できちゃった染み…です…」

悠「『わたしのマン汁でできた染みです』」

初瀬「わ…わたしの…マ、まんじ…マン汁でできた染み…です」

悠「いいわね?こういう恥ずかしいことドンドン言ってくのがコツだから」

初瀬「コツって…」

悠「じゃあ大起、今度こそ全部脱がしちゃってwふふ、初瀬の着ている『思い出』…全部剥いじゃってw」

バックに衣擦れの音?

初瀬「ああ…やば…」

悠「初瀬はエッチの時自分で脱ぐ派なの?」

初瀬「う…そう…だね」

悠「彼氏にも今度こうやって脱がさせてあげなよw男はこういうの結構喜ぶからさw」

初瀬「あ…ちょ…ぶ、ブラ…」

悠「はいはい、隠しちゃダメだってw」

初瀬「ほんとにコレ恥ずかしいから…」

悠「うわー、ちょっと嫉妬しちゃうくらい綺麗なおっぱいだねーw」

初瀬「いひい…♡」

悠「あー大起まだ触っちゃだめだよwまずはじっくり見なきゃね」

初瀬「…」

悠「結構乳首の色は濃いんだね初瀬w」

初瀬「うう…  
」

悠「乳輪も案外デカめじゃんw清楚な初瀬はもっと慎ましい乳首してんのかと思ったよ」

初瀬「つ…つましい乳首ってなによ…」

悠「じゃあ下も脱がせていよいよ初瀬のまんこ見ようかw」

初瀬「ちよちよ、ちよつと、それはちよつと心の準備させて…」

悠「あはは、まあ気持ちは分かるけどねw」

初瀬「あ、あの、電気消してほしいんだけど…」

悠「えーなんでー？」

初瀬「だって、体見られるの恥ずかしいじゃん…彼氏ともいつも脱ぐときは消してるから」

悠「じゃあなおのこと照明全開でいこかw」

初瀬「え？」

悠「彼氏すら見たことない初瀬の体の隅々まで、大起に見てもらおうよw」

初瀬「ちよ…お願い…」

悠「だいじょーぶだいじょーぶw二番手にはなっちゃんけど彼氏くんにもちゃんと誕生日に見せるからさ。立ってると抵抗めんどくさいから初瀬、ベッドに四つん這いになってくれる？」

初瀬「ええ…」

悠「ベッドに突っ伏してたほうが案外恥ずかしくないって」

初瀬「わ…わかったわよ…」



悠「あはは、お尻もでっかいわねーwTバックだからお肉丸見えw」

初瀬「で…デカいって言わないでよ…気にしてるんだから…」

悠「いや、男は大きい方が好きよ。でしょ？大起？」

初瀬「ひろくん…」

悠「この下着すごいね…後ろの部分ほっそいからほぼお尻の穴隠れてないわ」

初瀬「うう…」

悠「しかもさつきより染み広がつてんじゃんwウケるーwここにまんこの穴ありますよ、つて丸わかりだよw」

初瀬「…」

悠「下着脱がすとまず肛門から見えるねwいいよ大起、脱がしちゃえw」

初瀬「…」

悠「うほほwどうですか大起くん、これがあなたの憧れの女性の肛門だよ？wアナルだよ？  
w」

初瀬「…」

悠「へえー、ちょっと待ってね、スマホのライト点けるから…これでもっと良く見えるでしょ？wふーん、皺は少ないんだねw色もそんなにはつきりしてない感じでちょこんと穴がある感じだね。あ、見てみて、大起、そこ、そ、そこ。肛門の脇にホクロあるんだねwかわいいーw大起、ちょっとそのほくら撫でてみてよw」

初瀬「んう♡」

悠「あはは、うらやましいなーエッチなところにホクロあるんだねーwそれと脱毛はしてないけど…ちゃんと剃ってるんだw今日の為に風呂で剃ったの？w今朝？昨日の夜？w」

初瀬「…け、今朝…」

悠「初瀬かーわーいーいーw大起にボーボーのライン見せないために頑張ったんだーw匂いも全然しないし…うふふ、大起、想像してみても、初瀬がお尻の穴見られることを予想して、今朝一生懸命ここに石鹸付けて洗ったんだろうねwあ、でも残念、ここに一本剃り残しが生えてるねw」

初瀬「うう…やだ…」

悠「ははは、初瀬、お尻の穴見られてマン染み広げないでよwさっきより一回り大きくなってるわよ？」

初瀬「うう…」

悠「じゃあいよいよ大起念願の初瀬のまんこを拝見しましよーかwばんつゆっくり下ろして…ゆっくり…ゆっくり…」

陰毛描写もイラストに合わせて。場合によっては直毛と巻き毛を入れ替えて。

ひゅー…！すっごw綺麗なまんこだね、初瀬wびらびら全然はみ出てなくて、周りの毛もしっかり処理されてる。クリの上にはちゃんと整えて陰毛生やしてるんだねw髪質から巻き毛かと思ったけど初瀬の下の毛は直毛なんだねw」

初瀬「んう…」

悠「あは、でも綺麗なまんこからめっちゃエロいの出てんじゃんwなにこのマン汁wどろどろのねばねばw色も濁ってて匂いも濃いわ」

初瀬「悠…やめて…」

悠「大起にキスされて、顔舐められて、服脱がされるだけで本気汁垂れ流すとか、初瀬はホントにどマゾなんだねーw」

初瀬「うううう♡」

悠「大起ー、そのクロッチについての初瀬のマン汁、指ですくってみせてよw  
そうそう、人差し指と親指ですくって…くっつけて…のばしてみても？」

…ねっばああああ♡♡

初瀬「ううううう♡」

悠「あー！ひろきひっどい！w女の子のマン汁を直接匂い嗅ぐなんて！w」

初瀬「やめて…」





手マン開始。悲鳴に近く、甘さゼロで。クチュ音効果音で混ぜると尚よし。

初瀬「んうあああ？！うあ！うあ！うあ！うあ！うあ！うあ！うあ！うあ！うあ！」

絶頂

っんきいいいい！！！！」

悠「あはは、すごい声w

とぼけて

でも初瀬全然イッたって言ってくれないなーwひよっとして大起今日不調？wいいよー本  
気出しちゃって」

手マン開始。悲鳴に近く、甘さゼロで。

初瀬「ちよっ！！ほんつとだめっ！！い！イッた！イッた！あ！あ！だめ！ま…たっ…また  
イつく…う！う！あ！あ！

絶頂

ううあああああああああ！！！！」

鼻歌

悠「ふんふん♪」

手マン開始。悲鳴に近く、甘さゼロで。

初瀬「うえええ！？ちよっ！い、言った！イッたって言ったからあああ！あ、あ、あ、だ  
め！」

悠「あーそーなんだーw初瀬イっただんだーwひろきにイかされたんだねーwで、だからな  
に？誰がイッたこと白状したら止めるって言ったの？w」

絶頂

初瀬「や、やつ、うあっ…んうあああああああ！！！」

悠「あはは、ビクビク痙攣しちゃっておもしろw」

過呼吸気味に

初瀬「はーっ、はーっ、はーっ」

悠「分かるよ、初瀬。アタシもこの手マン食らったことあるからね」

初瀬「はーっ、はーっ、はーっ」

悠「お潮こんなに噴いちゃって…つらいよね？」



4…動画終盤・痙攣爆イキ種付けエンド

動画再生

悠「大起おつかれ！腕つりそう？wこのために筋トレしてるみたいなどこあるよね、大起w」

悠「じゃあ初瀬の穴もほぐれたことだろうし、そろそろやっちゃおうかw」

悠「初瀬！…ん？初瀬？…あはは、気絶しちゃったみたいw」

悠「大起、起こしてあげて…いや、ちよつと待った！」

悠「ただ起こすんじゃないくてさ、お尻、思いつきり引っぱたいて起こしてあげてw」

悠「いいのいいの！初瀬自分で言ってたもん。「わたしマゾだ」って。」

SE

ぱしん！

初瀬「?!?!んぐあ?」

悠「あははwお目覚め?初瀬?」

マラソン後みたいに

初瀬「はあ…はあ…ちよつと…やばい…はあ、はあ」

悠「大起がそろそろぶち込みたいうからさ、仰向けになってくれる?」

初瀬「はあ…はあ…ちよつと…待って…」

悠「…大起」

SE

ぱしん！

初瀬「?!?!うきゅうううう?!」

悠「さっさとしないとお尻サルみたいに真っ赤になっちゃうわよ?w」

初瀬「はあ…はあ…お願い…いま…うごけn」

SE

ぱしん

初瀬「?!あふうううん?!」

悠「はーやーくー!さっさと彼氏じゃない男に股ひらきなさいよーw」

SE

ぱしん

初瀬「?!きゅううううう?!…わかった…わかったから…はあ…はあ…」



初瀬「ちょっと待ってちょっと待って!」

悠「どうしたの?」

犬が息をはくように

初瀬「はっ、はっ、はっ、はっ、はっ、はっ、はっ」

悠「あはは、どーしたのw」

初瀬「ひろ君だめ…ほんと今うごかないで…」

悠「あーwなるほどねwさっき言ったとおり、わかるでしょ。このちんこヤバいって」

初瀬「ふーっ、ふーっ、ふーっ」

悠「あっはっは、そうそう!そうやって息をしっかり整えてないと、大起がちよっと身じろぎしただけでいきそうになるからねw」

初瀬「ふーっ、ひろ君…ふーっ、絶対…ふーっ、今動いちゃ…ふーっ、ダメだからね」

悠「いま大起が動くとうなるの?」

初瀬「ふーっ、ダメ…ふーっ、イ…イっちゃから…ふーっ」

悠「だつてさ、大起w」

ゆっくりと大起の耳元で挑発するように

今動くとおーw大起のおちんちんが初瀬のおまんこをえぐっちゃってえーw

アヘアへにいきまくっちゃうんだってーw

でも初瀬ってば、いき狂ってるとこ見られたくないからあーw

大起に動いてほしくないんだってーw

でもおーw動いたら気持ちいいだろうなあーw

初瀬のおまんこ…あなたが大好きだった女の子のおまんこをおーw

ぐっぽぐっぽ耕したらあーwどんなに気持ちいいだろうねえーw

どうするう?動かないであげるう?

初瀬「…ひ、ひろ君…お、お願い…」

最奥を突かれる。ゆっくりと一発一発ピストンされる感じで。重い喘ぎ  
うああん???!?!?!」

悠「あははwごめんねー初瀬w大起、やっぱり我慢できなかったみたいw」

初瀬「うぎゅんっ!?!?!」

悠「うわーピストンおつもw大起ちよっとは手加減してあげなさいよw」

初瀬「んぎゃんっ♥♥はっ、はっ…ちよ…ほんとだ…」

「ダメ」の言葉の間に突かれて悲鳴を上げる感じ

めええええええん!♥♥はっ、はっ…う…うあああああ!♥♥

はっ、はっ…ん…ぐあああああ!♥♥はっ、はっ…待って、待って、ほんとに…

んううううううう!?!?!♥♥はっ、はっ…

ぐぎゅうううううん!?!?!♥♥はっ、はっ…ああああああん!?!?!」

肉声。バックグラウンドに動画再生音声として初瀬の喘ぎと息継ぎを継続。  
悠「ほら、見て、初瀬が早起にやられちゃってるよ？w 早起のデカチンであなたの彼女の大事な大事なおまんこ、犯されちゃってるよ？w 悔しい？それとも興奮する？  
…ふふw 我慢汁こんなに垂れ流しちゃって…  
自分の彼女のおまんこが他の男にほじられて、こんなに勃起させちゃうんだ？w」

動画再生継続(モノラル)

初瀬「はっ、はっ…はっ、はっ…はっ、はっ…はっ、はっ…」

悠「どう初瀬？早起のヘビー級ピストンは？w」

初瀬「はっ、はっ…はっ、はっ…はっ、はっ…はっ、はっ…」

悠「早起」

初瀬「んぎゃあああああ!!」

まって、はっ、まって、き、きもちいい、きもちいいからっ!はっ、はっ、

悠「初瀬、正常位でこれじゃもたないよ？w 寝バックだと女の子のまんこの中で、一番気持ちいお腹側えぐられてこの5倍気持ちいいのよ？」

初瀬「はっ、はっ…ね、寝バック？」

悠「あーw 知らないんだっけw 早起、お見舞いしてあげなよw」

初瀬「え？」

初瀬「ひっくり返される。SE？」

初瀬「や、わっ」

悠「はーい上からおちんちん入りまーす」

初瀬「や、ちょ、ま、…うあああああああああ?!」

悠「あはは!すごい悲鳴w」

初瀬「だめ!だめ!だめだめだめ!だめええええええええええええ!」

悠「初瀬ーw まだ入れただけじゃんw」

初瀬「ホントむりホントむりホントむり!」

悠「あはは、初寝バックが早起のとか、他の男のセックスじゃ満足できなくなっちゃうかもねw」

初瀬「はーっ、はーっ」

悠「それじゃあ、早起、あんたを振った女に…とどめ、さしちやおつかw」

寝バック激ピストン開始

初瀬「うあああああああああああ!!」

あっあっあっ

正常位の時より短い間隔で悠のセリフ中も喘ぐ(10秒くらい)



悠「いやね、わかるよ？わかってる。何度も中だけはダメって言われたし、約束もした。初瀬があんだけ嫌がってた中出し、嫌だっめっちゃわかるのよ。

でも今考えたんだけどさ、「初瀬が一番嫌がってるエロいことされる」って、彼氏にとって最高の褒美なんじゃないかなーってねw

「これだけはやめて」って決めたことされちゃうっていうの、逆に最高なんじゃないかなって、思うんだよねw

一応ね、数分前までは初瀬との約束通り、中出しはナシって思ってたんだけど、今さー、そうやって思いついちゃったんだよねw

だからプロデューサーのアタシとしては最後は中出しで決めたいと思うんだけど……

**初瀬が失神してるとは分かっている上でとぼけて**

…どう？初瀬？あれー？また失神しちゃってる？w

あははそっかーw失神しちゃったかーw

初瀬ー、もう一度正式に聞くよー？約束破ることになってホント悪いんだけどさーw中に出していいかなー？w

初瀬のおまんこの中に、大起の精液出しちゃってもいいかなー？w

…あは、何も返事ないってことはおっけーってことだよねw

おっけー大記、その失神してる彼氏持ちまんこ、種付けしちゃっていいわよw

彼氏くーん、見てるかなあ？今から、初瀬があんだけ嫌がってた中出し、やっちゃおうと思いまーすw

ふふ、「それだけはしないで」って言われたこと、彼女がされちゃうの、どんな気分？w

初瀬の子宮、初瀬の聖域に、大記のきつたないザーメン、ぶりぶり注ぎ込んだじゃうからねーw

ほーら、良く見ててねw他の男の汚い肛門と金玉、ちんこなんて見たくないだろうけど…だーめwちゃんと見てて？この汚ったないモノが、あなたの彼女のまんこに種付けするんだからねw

大記の金玉のこの筋肉が「ピクっ」て動いたら、金玉からザーメンせり上がってる証拠だからねw

大記、どう？憧れの女のまんこにザーメン叩き込める気分は？w

あは、サイコーだってさwあはは。

あ、イっちゃう？w

彼氏くーん、大記、出しちゃうってさーwあなたの彼女に、膣内射精するってさーwちよっと近づくなw

ほら、これで良く見えるでしょ、初瀬が中出しされるところw

あは、分かりやすいように大記がカウントダウンしてくれるってよー？w  
いくよー？w初瀬が彼氏じゃない男に種付けされるまでえー、

3

2

1

あは、あはは、でてるw出てる出てるwあはははは！  
ぶりゅっ、ぶりゅりゅっ、ぶりゅりゅりゅりゅっ！！

くくく、彼氏くーん、初瀬、中出しされちゃいましたーw

信じられない？嘘だって思ってる？

じゃあ決定的証拠を見せてあげようかw

大記、ゆっくり抜いて見せてあげて？

ほら、大きなちんこが、ずりゅりゅーって抜けていって……

うふ、さっき見たかわいい初瀬のまんこが、こんにはw

でもちよっと脇に引っ張ってあげると……

ほら！wほらほら！w出てきた出てきた！w汚ったなwってかザーメン濃！ネバネバ過ぎ  
てあんまり逆流してこないわねw

でもアタシは知ってるんだーw大起の射精量って半端ないから、

ねばねばで初瀬のまんこにこびりついてるだけで、とんでもない量が注がれてるんだよね

w

大記、ちよっと初瀬のお腹押してあげて。

そ、下からグって。

SE(ふぉっく)

あはは、出た出たwめっちゃ出てきたw

それで聞いた今の音wまんこからザーメンが出てきただらしない音。

マン尻っていうんだよw

マン尻が出てザーメンが逆流してきたってことはね、彼氏くん、初瀬のまんこ子宮は、1

ミリの隙間もなく、大記のザーメンにコーティングされたってことなんだよ？w

うふふw

アンタの彼女……寝取られちゃったねw種付けされちゃったねw

肉声

「右耳近め」

悠「はい、お疲れ様w沢山出たね。どうだった？彼女がコテンパンに犯されて、あんたがやってもない中出しされて、種付けされちゃった動画は？w

一応この動画を見終わったら連絡してもいいってことにしてるから、初瀬に電話してあげてねw

あ、でも最初に言った通り、初瀬はおうちにいるんじゃないの。どこにいると思う？  
ねえ、どこにいると思う？

一拍おいて

さっき動画で見た、あのホテルのお部屋だよw

そ。朝アタシと大起と待ち合わせてあのホテルに行って、動画を録って、  
で、アタシだけここに来たってのがネタバラシw

だからね、大起と初瀬、まだあのホテルのお部屋に二人っきりでいるんだよ？

大起はね、女をあーやってイカせるだけが取り柄じゃなく、めっちゃ絶倫なんだよねーw  
あの動画が終わってから、うーん、今夕方6時だから…7時間くらい？

ふふふ、初瀬、大起に7時間で何回犯されたんだろうなあ？w

じゃあそういうわけで初瀬をお疲れ様、ありがとうって労ってあげてね？

ひよっとしたら電話つながったその瞬間も、大起が初瀬のまんこの中に、

ぶりゅりゅりゅりゅーっ♡♡

って、種付けを続けてるかもしれないけど、

それでもちゃんと言うんだよ？

初瀬が電話口で喘ぎ続けてても、

「素敵な誕生日プレゼントありがとう」…って♡♡

じゃ、また大学でね、ばいばい♡♡」